

学燈 *gakutou*



【第21号】

実践研究中間発表会・成果報告会を開催しました

学校経営コース 中間発表会（学校経営コース1年） 成果報告会（学校経営コース2年）

【中間発表会（学校経営コース1年）】

7期生8名が、日々奮闘してきた1年目の研究の軌跡を発表する場が、中間発表会である。発表当日は、これまで研究を支えてくださった原籍校や市町の関係者の方に参画していただいた。研究を様々な視点から価値付けていただいたり、新たな示唆をいただいたりすることができ、多くの方の支えの中で中間発表会を終えることができた。ここからがリスタート。中間発表会を経て新たに設定した課題を胸に、2年目の成果報告会を見つめて動き出したい。



【成果報告会（学校経営コース2年）】

「成果報告会は、成長報告会である」といわれるが、まさしく教職大学院での2年間の学びや成長を問われるものであった。加えて、実践研究に関わって頂いた原籍校や関係校の先生方、保護者や地域の方、教職大学院の先生方や仲間など、多くの方からの支えで2年間学べたことを実感し、感謝する場ともなった。協議では、多様な視点から今後につながるヒントを頂いた。大学院での学びは成果報告会で終わりではない。6期生7名それぞれの学びを今後に生かしたい。



本年度新規の取組【中間発表会后ディスカッション】

過去の先輩方がその年々での課題をもとに、「次の院生のために」とバージョンアップして来られた中間発表会。7回目である今回は「ディスカッションの導入」に挑戦した。発表や関係者からの指導助言に止まらず、さらに学びを深めることが目的である。「今後、実践研究を推進していくためのレバレッジ・ポイントとは？」というテーマでの議論を通して、今後の研究の方向性について、改めて考えることができた。同時に、1年後に行う各自の成果報告会におけるフィッシュボウルについて、イメージする機会にもなった。



【中間発表会（教育実践開発コース1年）】

教職大学院での9か月の研究の総括となる中間発表当日となった。これまで私たちの研究を見てくださった多くの先生方に見守られながら研究発表が始まった。発表を通して、非常に多くの意見をいただけたことで、自分たちだけでは気が付くことができないような課題や改善点も多く見つけることができた。これらの改善点を、これからの研究に活かしていくことによって、残り1年間の実習や研究を、より有意義なものにしていく。これからも周りの人との関わりを大切にしながら研究を進めていきたい。



【成果報告会（教育実践開発コース2年）】

教職大学院に入学してから早2年。6期生5名の日々の学び、研究の成果、集大成を報告する日を迎えた。院生全員が自身の研究の成果を堂々と胸を張って、これまで支えていただいた大学の先生方、実習校の先生方に報告することができた。また、先生方から多様な視点からのご意見をいただき、新たな発見や課題を見つけ出すことができた。これから各院生は別々の道に進んでいく。今回、得ることができた成果、学び、課題を次のステージへの糧とし、日々学び、チャレンジし続けていきたい。



【中間発表会（特別支援教育コース1年）】

今年度の入学生は1名だったため、中間発表会と成果報告会が同日開催となった。入学して9か月、あっという間に当日を迎えた。温かい雰囲気にも包まれた中、オンラインと会場の参加者に1年間の研究の取組や今後の方向性について発表を行った。発表スライドが動かないなどのトラブルがあり、少しドタバタとしたものの予定通りに終えることができた。参加者からは、取組に向けた具体的な助言や期待のお言葉をいただいた。今後の研究に向け、推進力を高め、結果を導き出していきたい。



【成果報告会（特別支援教育コース2年）】

教職大学院特別支援教育コースにおいて、2年間という短い期間の中でさまざまな学びや経験をさせていただいた。その成果を報告会において、参加していただいた特別支援教育推進室の先生方等に対し、具体的にわかりやすく報告できたのではないかと感じる。また、質疑応答を通して実習における取組の振り返りや、研究についての成果や課題等をいただくことができた。今後は、赴任した学校において2年間で得た学びや経験、課題等を指導や支援につなげていきたい。



～教職大学院での1年間の学び～

【学校経営コース 1年生】

1年目を振り返ると、大変有意義な1年間であったと強く感じる。この1年間で得られた多様な学びは、これまでの教職生活では得られなかったものである。教職大学院での学びは、大学院の先生方による質の高い講義や共に学ぶ現職院生と交わす議論、県内各校で行われる研究大会・発表大会における様々な出会いによってもたらされている。多くの方々との議論や出会いを通して、これまでもっていなかった教育に対する視点や考え方、人間性に触れることができ、どれも大変貴重な機会であった。また、原籍校及び協力校のたくさんの先生方にご協力いただき、実践研究や学校実習では充実した活動を積み重ねることができた。これらの活動では、教職大学院で学ぶ理論を実践的に発揮する機会となり、「理論と実践の往還」を通じた実践力向上につながっている。

2年目となる来年度には、教職大学院という恵まれた環境における研修を充実させることで、自らの資質能力のさらなる向上に努めるとともに、原籍校を含めた学校現場への成果の還元をめざしていきたい。



【教育実践開発コース 1年生】

この1年、大学の先生方、院生の仲間、学校の先生方、子どもの姿など、さまざまな人とのつながりの中で学んできた。また、学部時代には限られていた授業実践の場も豊富にあった。そのような中であって、日々子どもと関わる中で、教師としての意図的なふるまいを学んだり、子どもたちに付けさせたい力は何かについて考えたりしてきた1年だった。いつも授業の主眼は子どもの姿から定まる。しかし、指導者の意図と子どもの学びのズレを感じることも多々あった。様々な方の多様な視点からの指導を頂くことによって気付いたことの一つは、子どもたちの思考の流れをつくるということである。また、型通りの活動や目標ではなく、授業の目標・目的と指導方法が一体化している必要があるということも学んだ。手段と目的は切り離されているものではなく、連鎖的な構造である。そのようなものの見方に気付くことができたのも、院生同士の学びあい、先生方のご指導のおかげである。つながりを大事にしながら、来年度も探求し続けたい。



【特別支援教育コース 1年生】

1年間を終え、物事の見方や捉え方に対する視野が広がったと強く感じる。今までは、一つの考え方や見方しかできず、状況を適切に捉え、把握する力が弱かった。しかし、学びを通して、物事を深く見詰め、自分事として捉えられるようになったことや原籍校の現状と課題を的確に捉えやすくなってきたこと、原籍校の組織を客観的に見られるようになったことがこの一年の変化である。今後も学びを深め、学校組織全体が捉えられるように視野を広げていきたい。

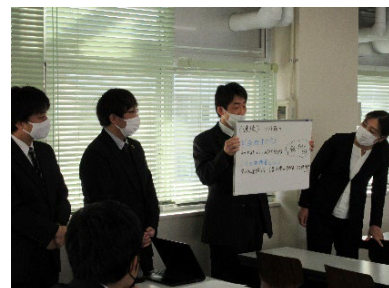
特別支援教育に関する学びでは、1つの分野を深く学ぶ機会になっている。ただ、学校現場ではあまり活用されていない現状がある。学びをどのように広め、子どもの学びにつなげるかを考え、現場に利点を伝えていくことが必要であると考える。また、特別支援教育の課題や教員に求められている資質・能力は多くなってきている。自分の役割は何か、今できることは何か、今一度問い直し、幅広く学んでいく必要がある。今後、学びを深めながらも、学びの偏りが少なくなるように努めて幅広く学び続けていきたい。



～教職大学院での2年間の学び～

【学校経営コース 2年生】

2年間の学修では、思考を整理しながら自分自身と向き合い、見つめ直すことができた。そこには新たな喜びがあった。また、周りの方々に支えられながらも悩み、考え、学び続けた2年間であった。課題実践研究を通して、人や組織を動かすということ、そして実践の成果や課題を分析して持続可能な取組にしていくことの難しさや重要性を理解することができた。その結果、今まで以上に広い視野をもって行動する力が身に付いたのではないかと感じる。2年間を振り返り、自分に身に付いたと考える資質・能力は、自分一人の力で身に付けることができたわけではない。教職大学院の先生方と仲間からよい刺激を受け、ともに学んだ2年間は学びの多い、充実した日々であった。これからの2年間で学んだことを生かすべく、新たな挑戦をする日々が始まる。今後も自分らしさを忘れず、2年間で得た横や縦のつながりを大切にしながら、レベルアップし続ける姿勢をもち続けたい。



【教育実践開発コース 2年生】

2年間の大学院生活を振り返って、理論と実践を往還させながら多くの学びを修めることができた。学校実習では、実地授業を計画していくうえで実習校や大学の先生方から多くのご指導をいただき、授業や指導方法等を多様な視点から捉えることができた。その後の授業では、目の前の生徒の実態に合わせて、生徒が主体的に学び、学びの成果を実感できるような授業を実践することができた。また、体育祭や文化祭といった学校行事、校内研修や学校運営協議会等にも参加させていただき、学部生時代では得られない多くの経験を得ることができた。研究を通して子ども達にとって体育授業が「楽しい」ものとなるように、様々な先行研究を調べ、多くの視点から検討し、授業実践を行うことができた。また、他の院生や経営コースの先生方との関わりのなかで新たな発見や自分自身のよさ、課題を知ることができ、何事にも代え難い日々であった。2年間の学びを糧に、教育現場に出ても日々学び続けることの大切さを心に留め精進し続けていく。



【特別支援教育コース 2年生】

2年間の大学生活を振り返って、講義やゼミなどで理論を学ぶことができ、学校実習において実践することができたと感じる。また、学校実習での実践を講義等で振り返ることができ、理論と実践の往還を行うことができたと考える。理論と実践の往還を通して教職大学院では、以下の3点を特に学ぶことができたと感じる。1つ目が、実態把握の重要性である。教師が複数人で子どもの様子などを意見交換しながら、支援や指導の妥当性を検討することが必要であることを学ぶことができた。2つ目が記録を取ることの重要性である。記録を取ることで、実施している指導や支援が子どもたちに適しているか確認することができた。3つ目が、自閉症のある子どもに対する支援についてである。特に「視覚化」が重要であり、子どもたちが見通しをもって活動に取り組めることで、称賛される機会が増えることを実感できた。以上の3点のことを、2年間の教職大学院生活で学ぶことができた。今後、これらの学びをどう生かしていくか、試行錯誤していきたい。



～教職大学院へのラストエール

お世話になった先生方から～

※五十音順にご紹介しております。

学校経営コース 霜川 正幸 先生

17年間通い続けた吉田キャンパスに桜吹雪が舞う頃、中学校教員から始まった43年間の教職生活の千秋楽、大学教員として定年退官の日を迎えます。理論と実践の往還、コミュニティ拠点方式、教育委員会との連携・協働、重厚な指導体制等、先駆的特色を誇る山口大学教職大学院を、一足お先に卒業させていただきます。浅学非才の私がなんとかこの日を迎えられますのも、ひとえに皆さま方のご指導の賜物と心より感謝しております。ありがとうございました。

院生諸君 全ての修了生諸君 日々の実践研究や教育実践は、決して楽ではないでしょう。苦勞の連続かもしれません。しかし、目指すところを見失うことなく、「誰のため」、「何のため」を思いながら、時には、こんなにも広くどこまでも続く青空を見上げながら頑張ってください。私の好きな武者小路実篤のことばを贈ります。

「ふまれても ふまれても 我はおきあがるなり 青空を見て微笑むなり 星は我に光をあたえ給うなり」

あなたたちの未来は輝き広がっています。

皆さまのご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。ありがとうございました。



教育実践開発コース 西 敦子 先生

42年前私が教職についたとき、最初に思ったことは「大学生の時にもっと準備しておけばよかった」という後悔でした。日々目まぐるしく、教材研究や授業準備に充てる時間はほとんどなく、仕事に追いつめられる毎日。学生時代はあんなに時間があつたのに、いったい自分は何をしていたのだろう、と。まず、学校現場を知らなさ過ぎました。当時は、教職大学院はもちろん、教育実習以外で学校にボランティアではいることもなかった時代です。多少の軽重はあるにしても、他のベテランの先生方と同じ仕事をこなしていかなければならない現場で、新人教員の負担はかなりのものでした。

教職大学院で学んだ皆さんは、多くの学校実習を経て、即戦力を身に付けられました。児童生徒の状況、学校運営の様子、授業の運び方など、先輩の先生方から多くのことを見聞きできたと思います。私からすれば、羨ましい限りです。大学院で理論を学び、学校で教育実践力を磨く、まさに理論と実践の往還を体現されていますね。皆さんにはその歩みに自信をもって、教育現場に出て行ってほしいと願っています。気負わず、怯まず、ただただ率直に子供たちに接して、自分らしく生きるたくましい先生になってください。そして、若い教員のリーダーとなって活躍してください。皆さんの前途を応援しています。



教育実践開発コース 前田 昌平 先生

「15年間 ありがとうございました」

平成20年度から令和4年度までの15年間、お世話になりました。前半の7年間は「ちゃぶ台ほっと研修室（前身は、ちゃぶ台よろず相談室「ちゃぶ庵」）でアドバイザーとして多くの学生さんと話す機会を、後半の8年間は新たに開設された教職大学院の特命教授として歴代の院生の方々と授業を思う存分楽しませていただきました。主に担当させていただいたのは、教育実践開発コース、学校経営コースともに前期の授業で、それぞれ入学直後の初々しい院生の方々と学びの場を共有できるという幸運を得ました。そこでの学びは私にとって貴重な財産であります。

社会がどんなに変化しても、その社会の担い手を育てる学校教育推進の要になるのは教員1人ひとりの授業力であり、連帯感に支えられた教職員の協働力であると考えています。その後押し役を担う教育行政機関と連携しての山口大学教職大学院。ますますのご発展を心より祈念いたします。

「ちゃぶ庵」の仕事にお誘いくださった田中淳夫先生（当時、山口県教育会事務局長）、「教職大学院の仕事を」と声をかけてくださった霜川正幸先生をはじめ、お世話になった全ての先生方に心から感謝を申し上げます。15年間、ありがとうございました。



令和4年度 教職実践高度化専攻（教育実践開発コース・学校経営コース・特別支援教育コース）の1年間

◎…原籍校や教育委員会での実践 ★…コース別研究会 ◇…試験関係

月	主な行事	教職実践高度化専攻			
		教育実践開発コース (学部卒)	学校経営コース (現職教員)	特別支援教育コース	
				(現職教員)	(学部卒)
4	・入学式 ・オリエンテーション 「大学院概要」「学校実習概要」	★オリエンテーション ◇教採対策勉強会	★オリエンテーション ★学校組織を活性化するマネジメント	★オリエンテーション	★オリエンテーション
5		★前期学校実習の進捗状況 ◇教採対策勉強会	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校経営コースとしての研究について	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★エビデンスに基づいた実践	★エビデンスに基づいた実践
6		★課題研究に関する情報交換	★学校実習リフレクション		
7		◇山口県教員採用試験(1次)	★学校実習に関する事例研究	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
8		◇教採二次試験直前の個人面接演習 ◇山口県教員採用試験(2次)	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校実習に係る熟議	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答	
9		★後期学校実習に向けて	NITS 集中講義「学校組織マネジメント研修」(オンライン)		★実践研究に係る発表及び質疑応答
10			★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践 ★教育行政インターンシップ報告会	◎特別支援教育の専門性向上に向けた実践
11	・教職実践高度化専攻入試	★課題研究の進捗状況と具体的な計画	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★学校経営コースとしての研究について (学校実習計画とルーブリック)	◎原籍校や教育委員会での実習中心	
12	・中間発表会・成果報告会リハーサル ・全員研究会 「日本教職大学院協会研究大会 プレ発表会」	★中間発表会・成果報告会に向けて ・令和4年度日本教職大学院協会 研究発表大会(福井大学)	★中間発表リハーサル	★実践研究に係る発表及び質疑応答	★実践研究に係る発表及び質疑応答
1	・実践研究中間発表会(M1) ・実践研究成果報告会(M2)				
2	・教職実践高度化専攻入試		◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★1年間・2年間の振り返り	◎原籍校や教育委員会での実習中心 ★実践研究に係る発表及び質疑応答 ★1年間・2年間の振り返り	
3	・修了式	★1年間・2年間の振り返り			★1年間・2年間の振り返り

学校実習

学校実習

学校実習

学校実習

アンケートのお願い

学燈を最後までご覧いただきありがとうございます。

学燈を見て頂いた方に、webアンケートを実施しております。

このアンケートの目的及び取得した情報の取り扱いは、以下の通りです。

【目的】

- どのような方がどのような目的で学燈を見ているかという実態を把握すること。
- 今後の学燈について、内容の充実や読みやすさの改善を図ること。

【取得した情報の扱い】

- ご記入いただいた個人情報やご意見は、上記の目的のみに使用します。

アンケートにご協力いただける方は、以下の二次元コードからアンケートへお答えいただきますようお願い申し上げます。



お持ちのスマートフォンから二次元コードを
読み取ってご回答いただけます。

下記URLからもご回答いただけます

リンク先のURL

<https://forms.gle/KzkSZtDyvy5aYPkp9>

ご協力ありがとうございました。次号以降の学燈もぜひご覧ください。